

NAHA SDGs Social Impact Bond Report



2025年度なはSDGs推進事業報告書

まちづくりの新しい手法SIBを用いて
那覇市でSDGsの活動を広げる

OKINAWA

NAHA



地域の課題を、 多様な「共感」と「協働」の 力で解決する

本書の目的

那覇市では、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」持続可能なまちづくりの実現に向け、2024年度より「なはSDGs推進事業（多様なつながり地域づくり）」をスタートしました。その中でまちづくりの新しい手法として、「那覇市版SIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）※」を導入しました。

本書は、「那覇市版SIB」の2024・2025年度の取り組みを総括し、事業が生み出した「社会的成果」と「新しい協働のかたち」を可視化・共有することを目的としています。

行政、事業者、市民等が連携して地域課題を解決する本スキームへの共通認識を形成し、次年度以降の那覇市版SIBの推進および那覇市のまちづくりを考えるきっかけとなれば幸いです。

※SIBとは、民間事業者が、市民や企業といった資金提供者から調達した資金をもとに事業を行い、あらかじめ設定した成果目標を達成できれば、行政が資金提供者へ元本・分配金を支払う、成果志向の取り組みです。

目次

Contents

新たな協働のかたち 「那覇市版 SIB」とは	P1-2
SIB プロジェクト実績報告 成果目標の達成状況	P 3-4
SIB プロジェクト採択事業者と、 共感でつながる出資者の姿	P 5-6
協働を推進するための 那覇市版 SIB 3 つの特徴	P 7-8
2025 年度那覇市版 SIB を支える 運営チームと評価委員会	P 9-10

那覇市版SIBの概要

那覇市は、1998年から「まちづくりの基礎は協働」を掲げ、地域づくりを進めてきました。那覇市には地域を支える市民活動が多数存在しますが、「資金調達」と「仲間の広がり」という継続性の課題を抱える声が多く聞かれます。世界共通目標であるSDGsの達成が2030年と迫る中、持続可能な市民社会の実現に向け、那覇市では「協働」をキーワードにSIBを導入することとなりました。

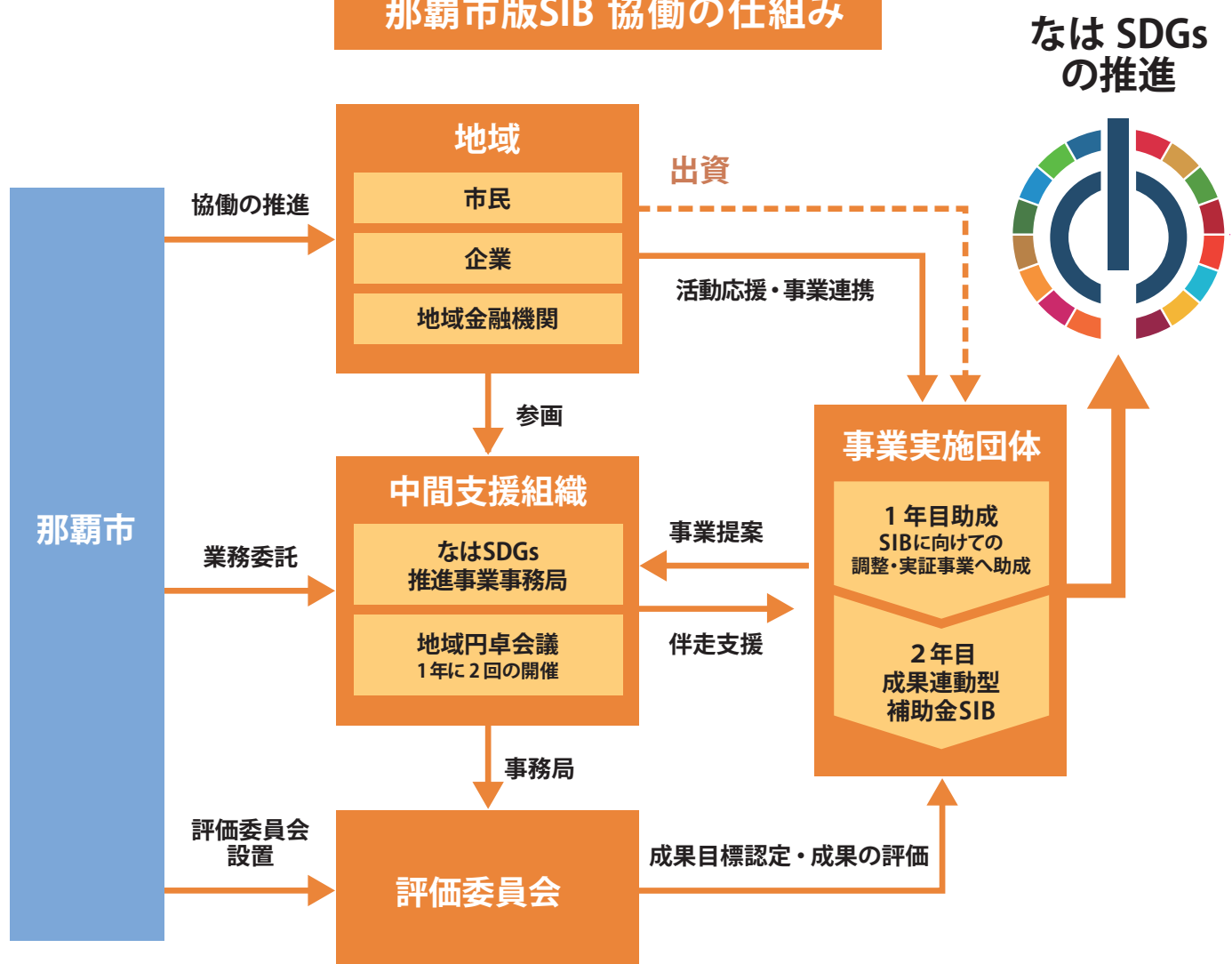
那覇市におけるSIBとは、市民活動団体がSDGs達成につながる協働活動を市民と共有し、それに共感した市民が「出資」をして応援をする取り組みです。事業は2ヵ年構成で、以下を実施します。

- ・1年目【助成事業】SIBに向けての調査・実証事業への助成
- ・2年目【SIBプロジェクト】地域の応援者から出資を募り活動を進める

中間支援組織による専門的な伴走支援や「地域円卓会議」での対話を通じ、事業の質と認知度を高める工夫も盛り込まれているのが特徴です。

成果目標の達成時には、市が支払う成果連動型の対価を原資として、出資者へ元本・分配金を還元します。単なる助成を超え、多様な主体がリスクと成果を分かち合いながら、資金と想いで地域にポジティブなインパクトをもたらすことを狙いとしています。

那覇市版SIB 協働の仕組み



SIBプロジェクト実績報告 成果目標の達成状況

一般社団法人琉球フィルハーモニック

プロジェクト名：地域と奏でる、子どもとまちの未来を拓くハーモニー
那覇市版SIB 若狭公民館発吹奏楽を通じた地域クラブモデルづくりプロジェクト

2025年度SIBプロジェクト概要

「音楽と共にまちと響きあう」を理念に掲げる琉球フィルハーモニックは、少子化や教員多忙化による吹奏楽部の活動継続にかかる諸課題に対し、「若狭公民館」を拠点に学校・地域・行政連携による持続可能な地域クラブの構築に取り組みました。出資金は、スタッフ活動費や講師謝礼、児童の安全確保費に充て、子どもが安心して活動できる音楽環境整備と、部活動地域展開における政策的波及効果をめざしました。

成果目標:すべて達成

- 地域クラブ中学生参加者数 15 名以上
- 事業期間内にコンクールや地域行事等に参加した回数 2 回以上
- 参加者満足度（「満足」「やや満足」と回答した割合） 80% 以上

出資者数：32 名

投資家特典：

2026 年 3 月に若狭地域の那覇中学校と上山中学校の 2 校と「ジュニアジャズオーケストラおきなわ」の子どもたちによる合同発表会にご招待

2024年度助成事業での取り組み

那覇市内の中学校長、部活動顧問、地域住民など計50名を対象に、吹奏楽部の地域移行に関する実態調査を実施。調査の結果、教員の負担軽減や専門指導への期待から地域移行を肯定する声が多い一方、「ヒト・モノ・カネ」の課題が明確になりました。

- 指導者の確保や学校・地域をつなぐ調整役の必要性（ヒト）
- 活動場所の確保や楽器の運搬・保管（モノ）
- 指導者報酬や高額な楽器修繕費の捻出（カネ）

- 単なるボランティア依存ではなく、適正な対価と資金循環を伴う「持続可能な仕組み」が不可欠

- 調査結果をSIBプロジェクトにおける資金使途（講師謝礼・安全管理費等）や協働体制の設計基礎とした

活動報告会レポート

SIBプロジェクト終了後、市民や出資者を交えた活動報告会が2026年2月22日（日）に開催されました。採択事業

者2団体からの成果報告に加え、「見えてきた課題をどう次へ繋ぐか」「事業の自走とは何か」をテーマに行われたディスカッションの様子をダイジェストでお伝えします。



ファシリテーター： 平良（伴走支援）

本プロジェクトは、部活動地域展開において議論が遅れている文化系部活動の実態を把握し、世の中に「課題を提示」する大きな意義がありました。この提示された課題をもとに、地域として次の一歩をどう踏み出すかが問われています。

沖縄県内中学校 校長

部活動の指導に疲弊する教員が多数いる一方で、「部活の指導がしたくて教師になった」という教員もあり、思いは一枚岩ではありません。まずは学校長と教育委員会がしっかりと話し合い、連携していくことが第一歩になると思いました。

琉球フィルハーモニック

廃部問題や先生方の疲労は待ったなしの緊急課題です。今後まずは、今回の成果を公開し、多くの人に見ていただきたいです。それをもとに教育関係者と連携しながら地域ごとの課題をオープンにし、持続可能な部活動のあり方と、吹奏楽関係者の仕事づくりにも繋げていきたいです。



部活動の地域展開に向けて、具体的な仕組みづくりを模索されている教育関係者や地域の皆様へ。本実証で作成した相関図や、調査の詳細な成果報告を公開しています。地域での連携や次なるアクションへのヒントとして、ぜひご覧ください。



労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団沖縄事業所

プロジェクト名：味噌でつなげる地域拠点「よりみん」の温かい共助の輪
那覇市版 SIB 真和志地域における多世代コミュニティづくりプロジェクト

2025年度SIBプロジェクト概要

都市化による孤立や高齢化が進む真和志地域で、地域住民が安心して集える「みんなのおうち よりみん」を運営するワーカーズコープ沖縄事業所は、「おから味噌」づくり・販売を通じた運営資金確保と地域のつながり再生に取り組めました。出資金は、商品開発やよりみん認知度向上のための広告費に充て、住民自らが経済活動を担いながら地域拠点を支える仕組みづくりをめざしました。

成果目標:すべて達成

- 居場所活動での利用者やおから味噌関連で関わる人や接点を持つ人が増える【事業最終月までに100人/月達成】
 - よりみん活動を通して生まれたエピソード（居場所利用前後の変化等の事例）を集め、共有する場をつくる【2025年 エピソード10本創出、2026年1月エピソード発表イベント開催】
 - 地域や関連団体又は個人と連携したイベントの開催【事業期間10回以上開催（月2回程度）】
- 出資者数：37名

投資家特典：

よりみんカフェのドリンク無料チケット贈呈

2024年度助成事業での取り組み

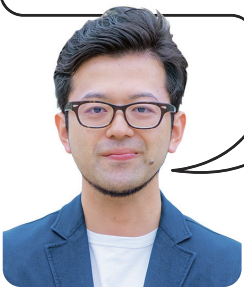
持続可能な居場所運営のモデル構築に向け、「仕事づくり（収益確保）」と「居場所づくり（コミュニティ形成）」の両面から実証。おから味噌をきっかけとした多様な人々との関わりが生まれ、収益の確保と地域サポーターの拡大に向けた事業基盤を築くことができました。

- おから味噌の販路開拓として大規模イベントに出店
- マーケティング調査を行い、目標の約2倍となる392個を販売した
- 多世代交流イベント（発酵食品勉強会やムーチャー作り）の開催や、ニュースレター約6,600部の発行を行い、活動の認知度と地域サポーターを拡大した

- 高い販売実績と顧客の声は、自主財源による居場所運営が可能であることを裏付ける根拠に
- おから味噌の黒字化と新商品開発が加速
- 公式LINEやボランティアとのネットワークは、SIBの鍵となる市民参加型の推進基盤として活かした

伴走支援者

何より重要なのは「つながりづくり」です。SIBプロジェクトでは、それをベースに成果目標を設定し、取組んでいただきました。今後、関係性づくりが味噌売上につながっているかを可視化して、よりつながりを広げていくことが、自走において重要ではないかと考えています。

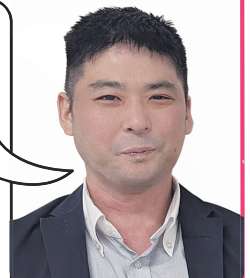


市民

これから自走ということですが、どのように展開されていくのでしょうか。

ワーカーズコープ沖縄事業所

「おから味噌」があるから、よりみんに足を運んでくださる方がいます。味噌を居場所が必要な人とつながるツールとして、多くの方に届けていきます。私たちの関係者を中心としたつながりから、今後さらに輪を広げ、循環できる事業をめざします。



ファシリテーター：平良（伴走支援）

味噌購入を通してよりみんのことを知った方が、商品購入だけではなく、ボランティアに、居場所利用に、と「関係性が行き来する」ことが本プロジェクトの特徴です。今後よりみんが経営上の岐路に立った時に「なんのために事業を行っていくのかを一緒に問い直す仲間」がいることは、かけがえのないことです。本プロジェクトで生まれたつながりが、支え合える仲間づくりの一助となり、よりみんらしい自走モデル展望が開けることを願います。

ワーカーズコープ
沖縄事務所が
販売する
おから味噌 ▶



那覇市 まちづくり協働推進課

本事業のコンセプトである「多様なつながり地域づくり」の通り、よりみんはまちづくりのど真ん中におられます。今回の経験を活かし、味噌の売上だけでなく、資金調達の仕方にも多様性を持って実施していかれることを期待します。

SIBプロジェクト採択事業者と、共感でつながる出資者の姿

SIBプロジェクトに挑戦してみて～採択事業者の声～

子どもたちの体験を保障し、 地域で成長を支える 持続可能な仕組みづくりへ

この度、「那覇市版SIB 若狭公民館発 吹奏楽を通じた地域クラブモデルづくりプロジェクト」にご出資いただき、誠にありがとうございました。本プロジェクトでは、「部活動地域展開」において、運営体制や活動環境の整備に課題を抱える吹奏楽に焦点を当て、地域に根ざした新しいクラブ活動の実現方法を検討しました。プロジェクトから見てきたのは、「課題」はやり方ではなく、「制度として成立させるための設計がまだない」という点に集約されるということです。専門家の指導による技術向上や教員の週末業務負担軽減といった効果を確認できた一方で、家庭事情による参加格差や運営費不足など、持続化に向けた制度的課題が明確化されました。最終的にめざす将来の地域の姿は、学校・地域・専門家・保護者が連携し、子どもたちが経済状態や家庭環境に左右されることなく、質の高い文化活動に参加できる状態です。SIBプロジェクトでえた成果を公開して議論し、教育委員会等とも連携しながら、沖縄の現状に合わせた持続可能な仕組みの確立に向けて動いていきたいと思います。



一般社団法人
琉球フィルハーモニック
代表理事

上原 正弘さん

お味噌を起点に 多様な人とつながり、誰もが 生きやすい地域をめざす

「那覇市版SIB 真和志地域における多世代コミュニティづくりプロジェクト」にご賛同いただき、その想いを出資という形で応援してください。皆様は心より感謝申し上げます。本プロジェクトからイベント出店や広報費用等への支出が捻出できたことは、「おから味噌」や「よりみん」の周知拡大に大きな後押しとなりました。今後も「おから味噌」を通して、多くの人とつながり、地域になくはない拠点（場）づくりをめざします。地域には、「制度の狭間」に陥り孤立しがちな方々の存在や、居場所活動を続けていく中で、新たに見えてくる課題もあると思います。今後は、これまで培ってきた地域とのネットワークを活かし、共に育ちあう関係づくりを図りながら、その課題解決に向け取り組んでいきたいと考えています。最終的な目標は、誰もが生きやすい愛着がもてる地域社会づくりです。孤立孤独を生まず、支え合いつなげる「ユイマール」の再構築に寄与できるよう、取り組んでいく所存です。私たちの活動は、まさにこれからが正念場！！引き続き応援の程、よろしくお願いいたします。



労働者協同組合
ワーカースコープ・センター
事業団 沖縄事業所
担当者

城間えり子さん

～助成事業の採択から成果目標の達成認定を経て～

那覇市初の挑戦：「地域の巻き込み」が 生み出した成果

今回のプロジェクトは那覇市にとっては初めてのSIBを活用した事業であり、とてもチャレンジングな取組でした。結論からいえば、両団体ともに非常に精力的に活動され、多くの関係者を巻き込み、大きな成果を残していただきました。琉球フィルハーモニック様は、中学校吹奏楽部の地域展開をテーマに「吹奏楽部を地域で育てる」実証プロジェクトを進めていただきました。私が参加した地域行事でも、中学生たちが生き生きと演奏しており、学校内だけでは得られない貴重な経験をしていると感じました。今後の部活動の地域展開に大きな示唆をいただきました。

ワーカースコープ・センター事業団 沖縄事業所様は、多様な地域住民が集う「居場所づくり」を行いながら、地域資源を活用した「おから味噌」によって運営資金をねん出するプロジェクトを進められました。この「おから味噌」が単なる運営資金づくりにとどまらず、地域との関係性強化や居場所に集う人たちの協働作業等にもつながり、とてもよい循環のきざしが見えてきたと感じています。

SIBは「成果連動型民間委託契約」と言われますが、重要なことは「地域の巻き込み」や「成果への注目」だと感じたプロジェクトでした。



評価委員副委員長

古謝 玄太 様

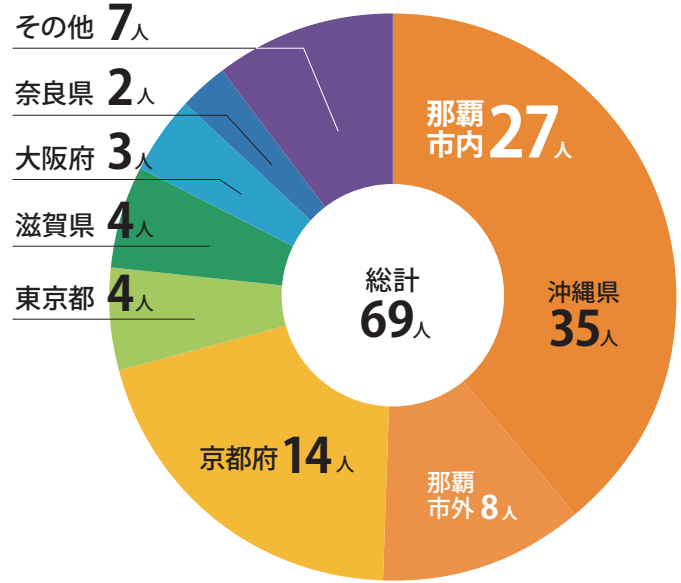
前那覇副市長

出資者の分析

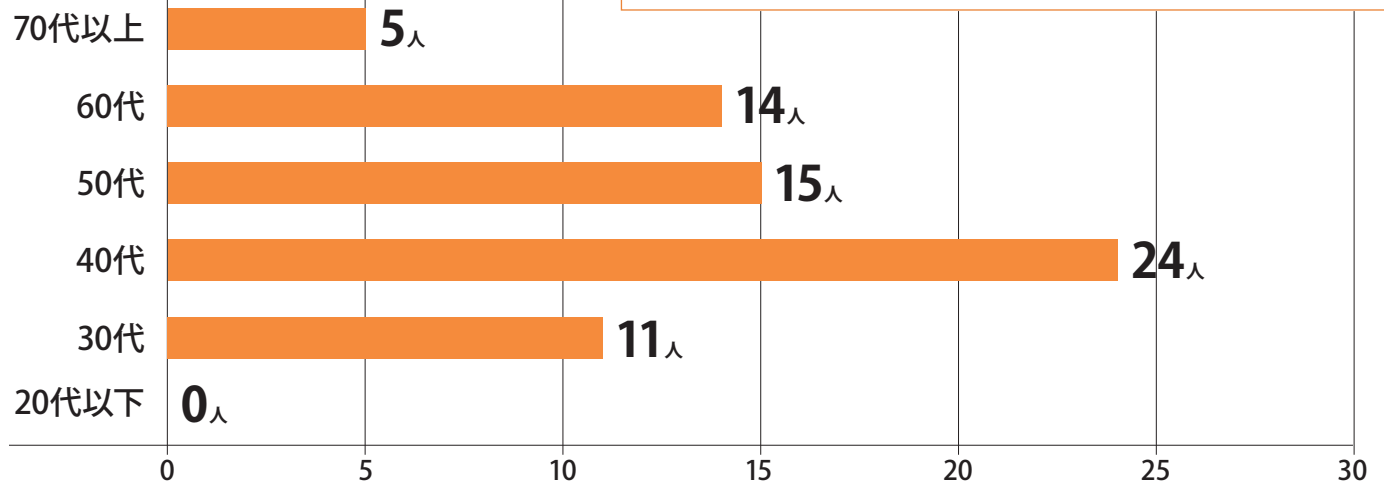
2つのプロジェクトを資金で応援くださった出資者（計69名）の方々について、分析を行いました。

沖縄県、特に那覇市内の方々からの支援が半数を占め、2プロジェクトを支えてくださいました。それに加え、県外からの出資が約半数を占めるなど、那覇市での活動に対する応援の輪が、地理的な広がりを見せました。また、出資者の中心が30代から50代の「働き盛りの世代」であり、全体の約7割を占めています。仕事や家庭で多忙な現役世代が、地域課題の解決に「出資」という方法で参画いただいたことは、まちづくりに参加したいという意識がうかがえます。

地域別



年代別



出資者からのコメント

出資から「ファン」、そして活動を支える「地域の仲間」へ

現在私は、社会教育士（学びを通じて、人づくり、つながりづくり、地域づくりの中核的な役割をはたす専門人材の称号）を養成する仕事に関わっています。2024年度に参加した地域円卓会議では、事業者が抱える課題を、まず参加した市民で共有し、解決に必要な「人」をお金を集めることを通して引き寄せており、社会教育士と地域づくりのアプローチが異なることに興味を惹かれ、出資説明会へ参加しました。会場では、元々関心のあった琉球フィルの活動を知ることができました。また、偶然試食した「おから味噌」が想像以上においしく、ワーカーズコープの仕組みにも関心を持

那覇市在住 2プロジェクト出資者様

ち、両プロジェクトへの出資を決めました。これまでも寄付活動をしている私ですが、1万円以上となると寄付では踏み切れないことも多いです。「SIBはうまくいけばお金が戻ってくるかも?!」その仕組みがあったからこそ、今回の支援を決断することができました。今ではおから味噌はうちの食卓に欠かせない存在で、子どももファンです。そして「よりみん」は、うちの子の居場所にもなりました。多くの人に届けたくて、自ら販売のお手伝いもしています。琉球フィルのイベントにも足を運び、吹奏楽の演奏を楽しみたいと思っています。

沖縄県外在住 2プロジェクト出資者様

私は京都市に住んでおりますが、「エンタライ」を通じて全国各地の挑戦を応援しております。今回那覇市の皆様が行う取組みにも強く共感し、出資させていただきました。住む場所に関わらず、志あるプロジェクトに参加できる点がSIBの大きな魅力だと感じています。この度、成果目標を達成されたこと、自分のことのように嬉しく思っております。遠く離れた那覇市の地域の未来づくりに関わられたこと、そして社会的リターンを実感できたことを誇りに思います。今後もさらなる那覇市の発展を心より応援しております。

協働を推進するための那覇市版 SIB 3 つの特徴

那覇市は「協働によるまちづくり」を旗印に歩んできました。その理念を進化させた仕組みが那覇市版SIBです。第一に、市民が“出資”という形で参画し、成果に基づき応援する協働モデルであること。第二に、調査・実証事業と地域円卓会議を組み合わせ、多様な主体が学び合い、共感を育む2年間のプログラムであること。第三に、SDGs達成を見据え、事業者自らが多様な資源を獲

得して事業を展開し、加えて行政との連携を通じて制度事業へと発展させ、市民社会の持続性を高めていくこと。

協働を一過性で終わらせない挑戦が、那覇市版SIBの特徴です。



渡嘉敷 洋美

那覇市 市民文化部 まちづくり協働推進課

段階的な2年間のプログラムで事業者の継続的な活動を支援

那覇市版SIBでは、公募によって選ばれた事業者が持続的に活動できるよう、2年間の手厚い支援プログラムを用意しています。

1年目 助成事業

- 成果連動型補助金SIBに向けての調査・実証事業へ助成
- 事業助言、相談対応、地域円卓会議実施などの伴走支援

- 那覇市から50万円の直接助成を受け、翌年度のSIBプロジェクトに向けた準備を進めます。
- 専門家からの助言や「地域円卓会議」の開催支援を通じて、地域課題や事業内容の調査・実証を行います。

2年目 SIBプロジェクト実施期間

- 成果連動型補助金SIBによる支援
- 助言や相談等、専門家等からの支援

- 市民・企業から50万円の出資を募り、その資金でプロジェクトを実行します。
- 専門家の助言に加え、市民からの共感や応援も得ながら取り組み、地域課題の解決を図ります。
- 3年目以降は自力で活動を継続できる状態をめざします。

3年目以降～事業者が多様な財源を見つけ、事業展開を行う

伴走支援者からのメッセージ

専門家による徹底した伴走支援

SIBの大きな特徴は、成果を明確にすることで社会課題への効果を測定できる点です。

● 専門家が継続的に伴走し、成果目標の設計はもちろん、課題の構造化なども支援します。

● 活動がより効果的で持続可能なものになるよう、多角的な視点からサポートを提供します。

上記の支援を受けることで、市民活動団体は2年間の取り組みを通して成長し、持続的な活動を実現していきます。



平良 斗星さん

公益財団法人みらいファンド沖縄
副代表理事

伴走支援者として、ヒアリングを通じ、ともに地域のつながりを観察し可視化するサポートをします。また、出資者を募るプロセスを通じて、新たな資源とつなぎ直せることがわかってきました。この機能を活かし、「どんな資源がどう関われば地域は変わっていくのか」という問いを立て、成果目標をつくるお手伝いをしています。



幸地 正樹さん

ケイスリー株式会社
代表取締役社長

伴走支援をする中で特に意識してきたのは、挑戦する勇気を丁寧に後押しすることです。SIBという前例のない手法に挑む中では、多面的な価値の中で何を成果とすべきか迷う場面がありましたが、丁寧に対話を重ねた結果、「地域でのつながりこそ最も大切だ」ということが明確になり、活動の方向性が定まりました。

市民と協働を深める「地域円卓会議」の開催

地域全体で課題解決に取り組むため、助成事業期間中に1団体1回「地域円卓会議」を開催しました。「地域円卓会議」とは、市民をはじめとする多様な関係者が一同に会し、地域の課題について共有する場です。

一般社団法人琉球フィルハーモニック

若狭地域における部活動の地域移行を考える地域円卓会議
～若狭地域で始める中学校の音楽系部活動の地域移行、まずスタートを切るために必要な条件を考える～



開催日時・場所：2024年10月27日(日)14:00-17:00
那覇市若狭公民館

着席者数：9名(論点提供者、司会、記録者を含む)

参加者数：29名(学校関係者、校区まち協、自治会等)

論点

これまで学校で持っていた部活動の機能の一部を地域で担うという、国内でもそのあり方に関して様々な議論がされている注目のテーマ「部活動の地域移行」。スポーツ系部活動が議論を引っ張っている中で、音楽系の部活動の地域展開のモデル作りに挑むべく、まだ議論が成熟していない今こそ、子どもたちの自主的で多様な学びの場である部活動の地域移行を始めるにあたっての課題共有をしていきました。



論点提供：

上原 正弘氏
一般社団法人
琉球フィルハーモニック
代表理事

地域円卓会議から見てきた今後のアプローチの方向性

体験の保障：あらゆる境遇の子どもが、学ぶ権利・体験を選択できる権利を保障する状態をめざす。

移行ではなく「地域展開・連携」：那覇市において学校は大きな資源である。教育的視点を残し、部活動を学校から切り離すのではなく、施設利用等の展開と連携を強める。

地域の理解を深める場づくり：地域側の議論が不足しているため、調査等を通じた啓発を行い、地域の支援者を増やす。

資源・資金の再設計：これまで教員のハードワークで維持されてきたコストを再評価し、資金確保や受益者負担時のケアを序盤から設計する。

参加した市民の声

- 資金(調達)アイデアがでてくれば…
- 販売をするためには、SNSなどの活用も必要では
- 居場所があることで自治会も活性化すると思う
- (居場所づくりが)できる人、手伝ってくれる人は必ずいるはず

労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 沖縄事業所

持続可能な地域拠点を考える地域円卓会議
～でつなげる多世代型地域拠点「よりみん」。その活用・地域参画、そして事業の継続について考える～



開催日時・場所：2024年11月17日(日)14:00-17:00
沖縄大学アネックス共創館

着席者数：9名(論点提供者、司会、記録者を含む)

参加者数：34名(地域拠点運営者、校区まち協、自治会、行政、企業等)

論点

こども食堂等、全国で様々な境遇や世代の方々の共生をめざした地域拠点が立ち上がり、多くの成果を上げています。しかし、その事業を持続していくためのリソースは不足しがちで、過度なボランティアへの負担や属人的な要素が多く、その事業の持続に関しては確立されたモデルは見えないという現状です。「よりみん」の近隣の豆腐業者のおからを活用した味噌床の製造というコミュニティビジネスを拠点内に実装し、その持続性や地域参画の間口を広げるチャレンジを共有しながら、だれもが自由に集える場所の必要性を理解し、多くの方々の参画により、大切な地域拠点を維持する仕組みを考えました。



論点提供：

城間 えりこ氏
労働者協同組合
ワーカーズコープ・センター
事業団 沖縄事業所



島袋 隆志氏
沖縄大学経済商学部
経済法学科 教授、
一般社団法人日本社会
連帯機構沖縄県本部
共同代表

今後のアプローチの方向性(提案)

価値の共有：「よりみん」が維持されることで地域のどんな課題が解決されるか、利用者や地域住民などの関係者と共に価値を議論・共有すること。

つながりの拡大：地域の子どもたちの課題や地域への愛着など、円卓会議で挙がったテーマに地域の人々を巻き込むこと。このつながりの増加が、おから味噌の関係者を増やし、売上確保へ繋がると考える。

参加した市民の声

- 子どもを安心して預けられる参加できる場になるとよい
- 才能があっても経済的負担で参加が難しい
- 社会・学校教育のはざまの問題

2025年度那覇市版SIBを支える運営チームと評価委員会

那覇市版SIBの運営には複数の団体が連携し、協働体制を築いています。各分野に強みを持つ団体が役割を分担し、事業を推進しています。

【事務局 (SIBプロジェクト)・伴走支援】

公益財団法人みらいファンド沖縄

市民の寄付で設立されたコミュニティ財団（2011年公益認定）。税制優遇を活用した基金設立や、外部有識者による公正な審査運営に強みを持ちます。休眠預金活用事業や「地域円卓会議」の開催（2024年度は19回）など、資金と対話の両面から公益活動を支えています。

【事務局 (助成事業)】

NPO法人まちなか研究所わくわく

「みんなで決めてみんながつくる」を合言葉に、ワークショップやファシリテーションの専門性を活かして市民参加型のまちづくりを推進しています。中間支援組織としての実績も豊富で、本事業では「地域円卓会議」の運営を通じ、地域に根ざした合意形成と主体的行動を促進します。

【ファンド取扱者】

プラスソーシャルインベストメント株式会社

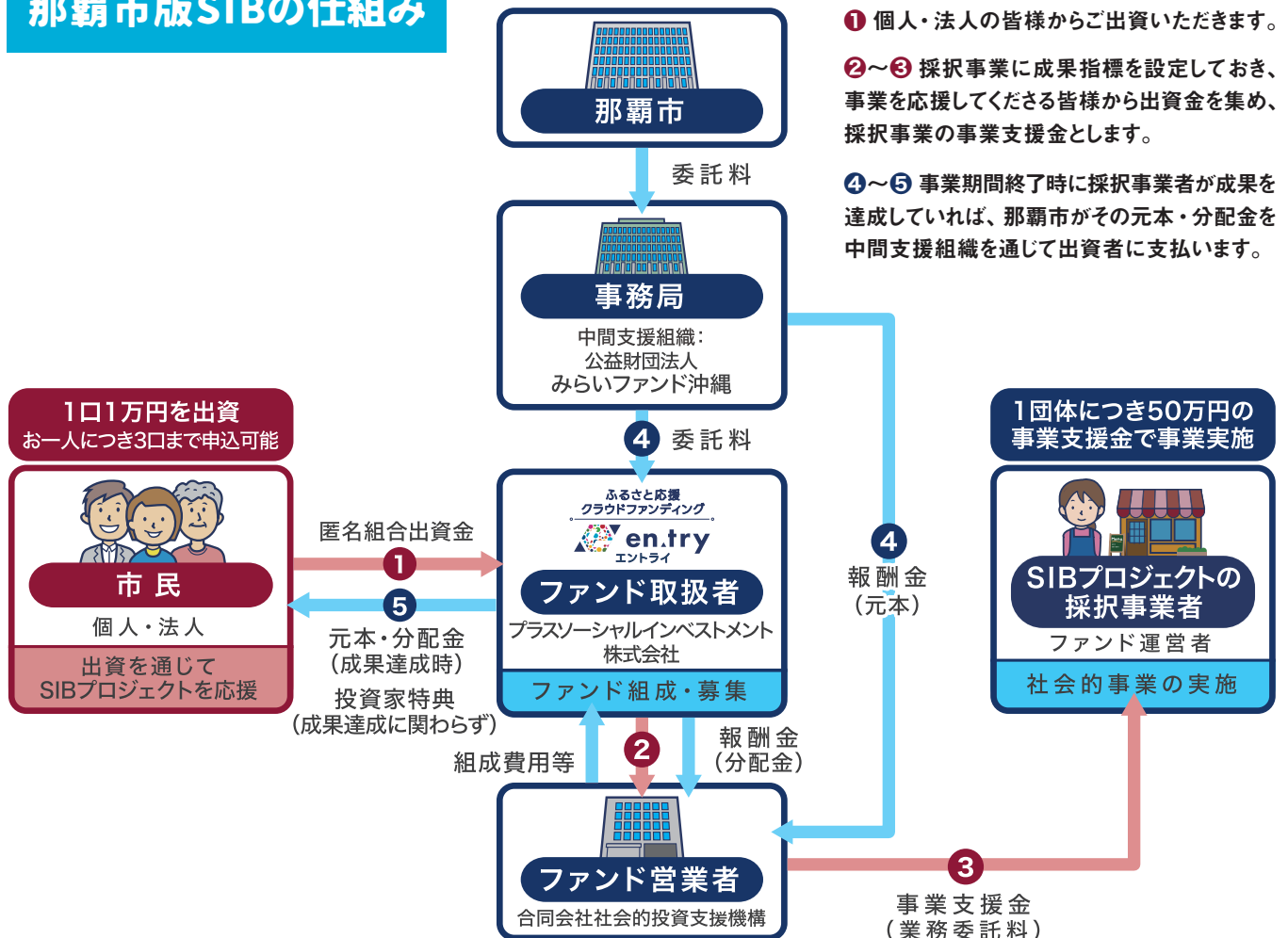
社会的投資専門の地域金融会社（第二種金融商品取引業者）として、共感に基づく資金循環を創出しています。ふるさと応援クラウドファンディング「エントライ」の運営ノウハウを活かし、市民が地域課題解決の「応援団」となる匿名組合ファンドの組成・管理を担います。

【伴走支援】

ケイスリー株式会社

行政・企業・NPO等の意思決定を支援する専門機関です。社会的インパクト・マネジメントや成果運動型支払（PFS）といった最先端の手法を駆使し、社会課題解決の成果（インパクト）を可視化・設計することで、持続可能な事業構築を伴走支援します。

那覇市版SIBの仕組み



評価委員会

那覇市版SIBでは評価委員会を設置し、専門的・客観的立場からの評価・検討を行う体制をつくっています。主な役割は、プロジェクト開始時の「成果目標の設定」と、終了後の「成果の評価」です。那覇市版SIBは成果連動型補助金の仕組みを用いているため、この委員会による評価報告を経て、目標達成が認められた場合に行政から元本・分配金の支払いが行われます。

また、数値化しにくい「地域のつながり」や「協働」について客観的評価から言語化し、事業の成果を可視化していくための知恵を提供してまいります。

2025年度 評価委員の皆様

島村 聡 氏 (沖縄大学 名誉教授)

古謝 玄太 氏 (那覇市副市長)

玉城 円 氏 (株式会社おきぎん経済研究所 研究員)

添石 幸伸 氏 (那覇市協働によるまちづくり推進審議会 委員、沖縄県ユネスコ協会会長)

比屋根 隆 氏 (株式会社うむさんラボ 代表取締役)

※役職は2025年度時点のものです

評価委員会メッセージ

協働を通じたまちづくりの視点からみた 那覇市版SIBの意義・課題・期待

多様なニーズを抱える那覇市が、この先も安心安全な市民生活を維持していくための必要条件として担い手不足の解消がある。しかも、現時点では、未だみえていない市民の課題にも予防的に対応していく必要がある。SIB事業は、多岐にわたる提案の中から課題を見える化し、同時にその担い手となる協働のパートナーを見出すという画期的な意義がある。実際に今回採択された事業者は、いずれも想定を超える多様なステークホルダー

の拡大や市民の参画、さらには今後の事業展開の方法を明確にするといった成果を示した。

一方、事業採択にあたって、その事業の価値をどこに見出すか、成果の指標を何とするかという課題がある。今回、第三者的な立場の「評価委員会」で評価の指標を定めて審査を行い、有意な団体を選考したが、量的な指標では示しにくい質の成果指標や、市との協働性と将来の自走性のバランスをどうとるのかといった

前向きな議論では立場が分かれた。

そうした中でも、この事業に応募した団体に寄り添い、事業計画のブラッシュアップか

ら活動のあり方に至るまで伴走し、地域円卓会議の開催によりステークホルダーの拡大に大きく寄与した事務局の動きは特筆できるものだった。那覇市の協働のまちづくりにとって、SDGs推進事業が、正に「原動力」となっていくのか、注目していきたい。



島村 聡 委員長
評価委員会

那覇市版SIBに関する特別メッセージ

東近江市SIBからみる、那覇市での新たな取り組みについて

「なはSDGs推進事業」による那覇市版SIBの本格的な推進、誠におめでとうございます。

東近江市では、「まちのお金がどうやって回っているのか知る」ことから始め、地域の中で資金を循環させるための仕組みづくりの一つとしてSIBに取り組んでまいりました。昔は学校や橋を作る際、当たり前のように近江商人らがお金を出し、住民がそれらに取り組んでいましたが、SIBはまさに、その精神を現代に蘇らせる仕組みだと言えます。

那覇市において、市民や企業の皆様が地域の課題解決に共感し、出資を通じて「応援団」となることは、地域の「未来資本を太らせる」素晴らしい取り組みです。これまでの行政による補助金の出し方を変え、出資で応援してもらう仕組みを組み合わせることで、市民の皆さんが事業の当事者になり、視線も意識も変わっていきます。民間の活力を活かし、成果志向で社会価値を創造していくこの挑戦は、持続可能な地域づくりに不可欠なものです。

沖縄ならではの温かいコミュニティの絆が出資という形で可視化され、地域経

済と社会課題の解決が両輪となって進むことを期待しています。那覇市版SIBが、那覇市が掲げる2030年に向けたSDGsの達成の一助として発展していくことを心より応援しております。



山口 美知子 さま
公益財団法人
東近江三方よし基金



NAHA SDGs Social Impact Bond Report

問い合わせ先：なはSDGs推進事業に関して

那覇市市民文化部まちづくり協働推進課

〒900-0004

沖縄県那覇市銘苅2丁目3番1号なは市民協働
プラザ2階

なは市民活動支援センター

Mail:C-KATU005@city.naha.lg.jp

TEL:098-861-5024

問い合わせ先：那覇市版SIBに関して

公益財団法人みらいファンド沖縄

〒901-2102

沖縄県浦添市前田1丁目6-24 トミハウス1階

Mail:office@miraifund.org

出資に関して

プラスソーシャルインベストメント株式会社

〒602-0862

京都府京都市上京区河原町通丸太町上る出水町
284番地

Mail:customer@en-try.jp